

翻訳：『ロークラインの悲劇』（1595 年）

第 3 幕～第 5 幕（全 5 幕）

桑 山 智 成
高 谷 修 訳

1595 年に四つ折り紙で出版された『ロークラインの悲劇』はこれまで日本語に翻訳されてこなかった。『英文学評論』第 87 集（2014 年）に発表した前半の第 1 幕と第 2 幕に引き続いて、ここに後半の 3 幕から 5 幕までを訳出した（3 幕 1 場から 4 幕 3 場まで高谷が、4 幕 4 場から 5 幕 1 場まで桑山が下訳を担当した後に、互いの訳を検討して原稿を作成した）。

この作品が出版されたのは 1595 年であり、エピソードのコーラスも、エリザベス女王即位後 38 年経ったと言及しているが、表表紙の「W.S が確認し、訂正し、新たに準備した」という文言から視えるように、古い脚本に手が加えられているようで、実際に随所に 80 年代の演劇を彷彿とする特徴が見られる。

その内の一つは、韻文セリフの主眼が言葉の形式的なレトリックを強調することである。短い韻文のやりとりが展開されて劇的効果が積み上がるというよりも、それぞれのキャラクターがじっくりとレトリカルな台詞を語る趣向が続く傾向にあり、二十行前後続く長台詞も極めて多い。それゆえに、シェイクスピアの台詞で見られるような、レトリックを効かせながらも人物の心理にリアルに迫る重層的な魅力はない。しかし、比較的わかりやすいレトリックと構文ゆえに、そして同じ形式がしばしば繰り返されるがゆえに、役者はしっかりと

台詞を語り上げることができ、観客はそれを十分に咀嚼しながら楽しむことができたであろう。こうした安定した劇言語の土壌からシェイクスピアの作品は生まれてきたのである。

『ロークラインの悲劇』の重要なテーマは復讐である。劇の冒頭ではハンバー率いるスキタイ人が、ロークラインが治めるブリテンを侵略し、ロークラインの弟アルバナクトが殺される。結局、復讐に燃えるロークラインたちによってハンバーは殺され、スキタイ人は撃退される。これは言わば物理的な武力に対する復讐だが、後半では愛情や信頼の裏切りに対する復讐が展開される。ロークラインは妻グウェンドリンと別れ、ハンバーの妻だったエストリルドを女王にするのだが、それに対してグウェンドリンとその兄スラシメイカスが反乱の軍を起こして復讐を果たすのである。

この後半で明らかに非があるのはロークラインであり、反旗を翻すグウェンドリンとスラシメイカスに大義があるように思われる。とはいえ、単純な勧善懲悪では終わらないことにこの作品の、あるいはこの時代のイギリス演劇の興味深い点がある。たとえばグウェンドリンは、初めは上品で物腰柔らかい女性に描かれており、スラシメイカスが彼女を復讐に促す時も夫を武力攻撃することにためらいを見せるのだが、最終場では血に飢えた残酷な復讐者に変化している。

これに関連して、最終場において、ロークラインとエストリルドの娘であるセイブレンに初めて台詞が与えられ、劇の焦点が当たっていることも注目値する。グウェンドリンは、直接的には罪のないこの少女に対し、実に残酷に振る舞うのである。特に、わざわざ書き込まれている「セイブレンの顎をつかむ」というト書きが、彼女の残酷さや、人格の変化を端的に表している。たしかにロークラインは国を乱した。しかしグウェンドリンも復讐という狂気に取りつかれ、新たな罪を作っているように見える。セイブレンは、自害する直前の台詞において、グウェンドリンに対して次のように述べる。

残酷な人殺しよ、
 このお前の行いが罰せられないとでも思っているのか？
 いや、裏切者め、神々がこの悪行に復讐し、
 地獄の悪魔たちがこの屈辱を覚えてくれるだろう。

もしもセイブレンに焦点が当てられていなかったら、ロックラインの自業自得という性質が強調されていたであろう。しかし実際は最終場のグウェンドリンにも疑問符を付けて芝居は終わるのである。

ここに復讐に対する当時の宗教観や倫理観が反映されていることは言うまでもない。聖書の「復讐するは我にあり」（『申命記』32、『ローマ人への手紙』12）といった言葉から伺えるように、キリスト教によれば復讐するのは人間ではなく神なのである。

このように考えると、各幕の始めに劇展開について説明する解説役のコーラスが、単に古い劇的趣向を繰り返しただけのものではないことがわかる。観客は、登場人物の現実よりも一つ上の次元から彼らを見守る存在を意識させられるからである。しかもこのコーラスには「狂気の女神アテイ」という設定までが与えられている。

グウェンドリンは、作品最後にはブリテンを統べる力強い君主となり、ここに出版当時の君主エリザベス女王の姿を見ることができる。実際にエピローグでコーラスがエリザベス女王に直接触れており、当時の観客もこの重なりを意識したであろう。しかし、グウェンドリンの台詞には先に述べた残酷さも織り込まれている。こうした不協和音はこの作品に確かな奥行きを与えている。

（桑山智成）

第3幕

第1場

（以前のようにアテイ登場。黙劇。小さな蛇が川の岸辺のワニに咬みつき、その後二匹は川の中に落ちる。）

アテイ 悪行は張本人に落ちてくる。¹
 逆巻く流れのナイル川の土手高くに
 恐ろしいエジプトワニが座り、
 その長く鋭い歯で
 無力な魚の内臓を噛み砕いている。
 彼の背中では磨かれた金のように輝く青銅の盾で武装され、
 槍の攻撃も受け付けない。
 しかしワニがその恐ろしい前足を伸ばした時、
 狡猾な毒蛇が忍び寄り、
 二股に分かれた舌の口で彼の鍵爪に咬みついて、
 毒を骨に密かに染み渡らせた。
 毒は彼の体を膨らませ、ついにその内臓が破裂した、
 ワニは自分の偉大さを信じていたのだが。
 同じように、アルバナクトを征服したハンバーは、
 自分の栄光をロークラインの剣に差し出すことになる。
 これから起こることをよく見るがよい、そうすれば容易に
 分かるであろう、
 我々の人生はすべて、悲劇に過ぎぬことが。 （退場）

第2場

（ロークライン、グウェンドリン、コリニーウス、アサレイカス、スラシメイ

1 原文はラテン語。scelera in authorem cadunt.

カス、キャンパー登場。)

ロークライン では本当なのか？ アルバナクトが殺されたというのは？

呪わしいハンバーが、彼の流浪の軍隊

つまり雑種の野良犬から成る軍隊を使って

われらの敬愛すべき弟を死に至らしめたのか？

ああ、私がトラキアのオルフェウスの堅琴をもっていたら、

黄泉の国の闇から黒きエレボスの醜い悪魔たちを呼び起こし

呪わしいあいつの魂を痛めつけさせてやる。

ああ、私がアムピーオーンの楽器をもっていたら、²

その力強い音と調べで

あらゆる硬固な石の硬い継ぎ目を活気づけ、

スキタイ人を罰してやる。

フン族のあの男が一万の命を持っていたとしても

全能のゼウスの稲妻によって殺してやる。

いやむしろ奴が一万の命を持っていたほしいと神に望む、

というのは腕力溢れるヘラクレスと共に、

邪悪なヒドラのシューシューと音をたてる首であっても全て切り

落としてやるからだ。

だが、従弟よ、教えてくれ、

どのようにアルバナクトが早過ぎた死を迎えたか、私は知りたい

のだ。

スラシメイカス スキタイ人の非道な軍勢が

装備を整えて戦いの野に入って来た後、

若きアルバナクトは、今や遅しと待ち受けていましたが、

2 アムピーオーンは堅琴の名手で、テーバイの城壁を作る時、彼の楽の音に石がおのずから動いたと伝えられる。

流浪の敵に対して軍隊を差し向けました。
敵の大軍は我々の兵士の心胆を寒からしめましたが、
何物も勇猛果敢な我が王子を怯えさせることはできず、
最も豪胆な心意気をもって、
羊の群れを襲うライオンのように、
軟弱な流浪の敵を壊滅させました。
彼らの間を剣で切り裂き通路を作りました。
そして我々が殆ど彼らを撃退した時に、
その時突然に静かな森の中から
ハッバが二万の兵士を率いて、
手薄になった我々の背後を卑怯にも襲い、
致命傷を与えて全員を虐殺したのです。
死者の中には、勇敢な騎士、老デボンも含まれ、
彼は多くの傷を受けて死に絶えました。
アルバナクトは多勢に囲まれながらも
勇敢に敵を倒しましたが、
命と名誉を差し出して、土塊となりました。
彼が死ぬと、兵士たちは必死に逃げ出しました。
あなたにこの出来事を知らせるために、
私も一人で敵から逃げてきたのです。

ロークライン 堂々たるトロイの王、アジアの偉大なる皇帝である
老プリアモス王が、
自分の高貴な息子達が
卑怯なミュルミドンたちに殺されるのを見た時でさえ、
私がアルバナクトのために嘆くほどには嘆かなかった。
グウェンドリン イーリオンの女王ヘカベーも、
王宮が焼け落ち、

ベルガモンの町が劫火に包まれ、
若々しい五十人の息子や娘が
邪悪なピュロスの血生臭い剣によって殺されたのを見た時でさえ、
私がアルバナクトのために流すほどには涙を流さなかった。

キャンバー 美しいアテネの女王、ニオベーが
武勇に優れた七人の息子を想い
最も美しい女よりも美しい七人の娘を想って
嘆いたが、私の嘆きとは比較にならない。

コリニーウス 殺された王子のために嘆いても、無駄なことです、
彼が倒されたことを嘆いても、無駄なことです。
最も愛する者とは最も嘆く者ではなく、
不正に対して復讐する者なのです。
敵の軍勢を制圧できると思いますか、
子供じみたすすり泣きや女々しい嘆きで？
剣を抜くのです、これまで敵を征服してきたその剣を。
そして果たすのです、この傷を癒す復讐を！
私が軍隊を置くコーンウォールには、
一万人もの武装した勇敢な兵たちがおり、
コリニーウスは彼らを何時でも自由に動かせます。
これらの軍勢と、そしてもっと多くが必要ならば、もっと多くを
コリニーウスは何時でも自由に動かせるのです。

キャンバー カンプリアの戦いの地において、
轟音をたてて流れるイスカン川の銀の流れのそば、
そこでは妖精が足取りも軽く、岸から岸へと跳ね回ります。
優に二万人の勇猛な騎士たち、
騎士の闘いで鍛え抜かれた者たち、
勇猛さにおいては無敵の騎士たちを、

若きキャンバーは給金と食糧とをもって遇しています。
これらの軍隊と、そしてもっと多くが必要ならば、もっと多くを、
弟の死の復讐を果たすために差し出しましょう。

ロークライン 感謝しよう、優しい叔父よ、善き弟よ、
この復讐が、この復讐という甘い言葉が、
私に対する不当な屈辱を和らげ止めるにちがいない。
軍神マルスの剣にかけ私は誓おう、
甘い安逸は決してこの私の顔には顕れることはない、
高貴な弟アルバナクトを殺した敵の頭上に
復讐を遂げるまでは。
太鼓とラッパを鳴らせ、軍勢を招集せよ。
すぐにアルバニアへ進軍するのだ。 (一同退場)

第3場

(ハンバー、エストリルド、ハッパ、トラシアー、兵士たち登場。)

ハンバー 我々はやって来た、栄光溢れる勝利者として
この滔々と流れる銀色の水の川辺まで。
この川は、勝利を記念として
私の名に因んで呼ばれるようになり、
子孫によって語られるであろう。
金色の太陽が馬を走らせて
美しいテティスの海原に至る前に、³
この緑の野において
敵を血祭に上げて、
水が血に染まり

3 ギリシア神話で海の女神。人間であるペーレウスと交わりアキレウスを生む。

その青い色を悲しみの赤に変えるのを私は見たいのだ。

（アルバナクトの亡霊登場）

亡霊

見よ、裏切り者がいかに自らの危害を予見しているか。

見よ、自らの破滅の中でいかに驕り高ぶっているか。

見よ、自らの敗北の中でいかに勝ち誇っているか。

ああ、運命とはいかに卑しく、不安定で、移り気で、浮気なことか！

ハンバー

私には戦いの野にいる両軍が見えるようだ、

折れた槍が晴れ渡った空中に跳ね飛ぶ、

ある者は首もなく、またある者は息をせず大地に横たわる、

そしてあらゆる処に死体が溢れている。

見よ！ 草地は心地よい緑の色を

つまり目に見える最も甘美な光景を失っている。

亡霊

ああ、非道なハンバーよ、お前はそれを見ることになるだろう。

そう、お前は自分の痛手としてその光景を見ることになるだろう、苦悩と哀しみと、そして悲しい嘆きを感じながら。

今お前の目を楽しませている草原は、

夜が来る前に、全て血で染められるだろう。

蔭多き木立は、今お前の軍隊を取り巻き

お前の極悪の軍勢に甘き安らぎを差し出しているが、

夜が来る前に、全て血で塗られるだろう。

深き川は、お前の天幕の傍を流れ、

その水をお前の軍勢に差し出しているが、

夜が来る前に、血の海に変わるだろう。

そう、お前の敗走する兵士たちの血によってだ。

今や復讐が私の消えない悲しみを和らげるだろう。

今や復讐が私の熱望する魂を満たすだろう。

- ハッパ 何であれやって来るがよい、私はそれに耐え抜くつもりだ、
栄光ある勝利を得て生きるか、
騎士道に相応しい名誉を得て死ぬだけだ。
蜜蜂が針を持つからといって蜜蜂の巣を避ける者は
蜜の巣には値しない。
多くの危険を伴い易々とは得られないものこそ
私には最もよく似合うのだ。
何ものも私の王たる精神を怯ませることはできず、
我が心は黄金の王冠以外は何も求めず、
それが私の企ての最終の目的だ。
それが陰惨なブルートーの宮廷で魅力あるものとされ、
彼の黄泉の国の手下の間で宝物として重宝されているなら、
私は三つの頭を持つケルベロスと
その恐ろしい魔女たちの群れをも鎮め、
あるいは、哀れなシジフォスと共に石を転がし押し上げるだろう。
- ハンバー 我が貴高き息子よ、お前の思いは正に武勇に満ちている。
そしてお前のどの言葉からも騎士道の香りがする。
（セガール登場）だが、武勇に優れたセガールよ、どのような予
期せぬ出来事が
お前に陣営の守備を放棄させたのか？
- セガール 武器をお取り下さい、閣下、荣誉溢れる武器を！
兜を取り、盾を手にとってください。ブリテン人がやって来ます、
その数はかつてギリシア軍が
フリギアのテネドス島の港に連れて来た軍勢よりも多いのです。
- ハンバー だがセガールはこの出来事に対し、どのような助言を言うのか？
このような窮状において、どのような建言をするのか？
- セガール 閣下、経験が我々に教えております、

意志の固さこそが窮状における唯一の手助けだと。

そして、閣下、我々の名誉が我々に教えております、

我々はあらゆる行動を大胆に行うべきだと。

それに、戦うか死ぬか、それ以外に道はないのですから、

閣下、勝利を目指し意志を固めるべきです。

ハンバー 意志を固める、セガールよ、私はそのつもりだ。

幸運の星が我々に味方してくれるだろう、

そして慰めを我々の混乱にもたらすだろう。

さあ、中に入り、我が軍に戦いの準備をさせよう、

強力な侵入者に対抗するために。 (一同退場)

第4場

(ストランボー、トロンパート、オリヴァー、そして彼の息子ウィリアムが彼らに続いて登場。)

ストランボー いや、隣人のオリヴァーよ、あんたがそんなにけんか腰になるのなら、準備をするのだ。俺たち二人は北部地域では誰にも負けないくらい頑強な二人だよ。

オリヴァー いやだよ、本当に、ストランボーよ。わしは思うんだけど、あんたはちいっとばかり思慮が足んねえ、であんたの昔からの友達、あんたの家族の友人の一人に悪いことしようとしている。だもんで、あんたの見解は理性なしに対処しようてんで、わしとわしの息子のウィリアムはその同じ手段を取るつもりだ、つまり理性から最も離れた遣り方をさ。どうだい、あんたはわしの娘を娶る可否か？

ストランボー 難しい問題だな、隣人よ、でもな、俺なりにそれを解決しよう。そんなことを、あんたが俺に要求するどんな理屈があるっていうんだ？

ウィリアム　じゃあ、あんたに、どんな理屈があったんだ？　俺の妹を納屋の中で干し草の上に横にして、やった時に。

ストランボー　そうだ、その通りだ。さて、でも、あんたはそれで俺をあの女と結婚させようって訳かい？　あの女なんて軽蔑するね、あんたも。ほんとに、俺はあんたらみんな軽蔑してるんだ。

オリヴァー　じゃあ、彼女を嫁には貰わないでんだな？

ストランボー　紳士として誓っているが、ノーだ。

ウィリアム　じゃあ、あんたに教えてやろう、あんたと俺たちがここから別れる前に。

（二人争う。マージェリーが登場し、争っている時に、兄の手から棒を取り上げる。）

ストランボー　ああ、あんたはデザートの時に来たね、さもなきゃ、俺が奴らを料理していただろう。

マージェリー　あんた、この生意気野郎、田舎っぺ、間抜け、この大食らい、指舐め、あんた聞こえないのかい？

ストランボー　誰に話でんだい？　俺にかい？

マージェリー　ええ、あんたにだよ、不正直で知恵足らず野郎にだよ。私を嫁に貰わないといっているのはあんたかい？

ストランボー　いや、本当に、洒落たお嬢さん。なんと上手く俺に綽名を付けてくれたもんだ。思うに、あんたはブライドウェルの大学で学んだようだね。⁴ あんたは、若い時に少しも叱られなかったみたいに、毒舌を舌の先に用意しているね。

マージェリー　おや、善人の鰐の頭よ、あんたが私と結婚しないなら、さようならだね。

ストランボー　あんたがそうあっさり言うなら、あばずれのお嬢さん、さよう

4　ロンドンのテムズ川の近くの監獄。

なら。

マージェリー いや、ストランボー親方、あんたがここから行く前に、もうちょっと話すことがある。あんたは本当に私と結婚する気はないのかい？（二人争う）

ストランボー ああ、俺の頭、頭！ ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい！ します、します、結婚しますよ！

マージェリー そういうことなら、あんたを放してあげよう。

オリヴァー おや、ストランボー親方、わしの娘があんたに新しい教訓を教えたようですな。

ストランボー ああ、でもいいかい、善人のオリヴァーよ、毎日俺の頭を割られたんじゃあ、俺は落ち着けない。だから、これは直してくれよ、そうすれば俺たちはなんとかやって行けるだろう。

オリヴァー そうだな、息子よ、—— あんたはもうわしの息子だからな—— 全部直させよう。娘よ、仲直りしなさい。（握手する。）

ストランボー あんたはかわいいクルミのような小悪魔だ。お客様方、これが俺の運だと思う。俺の最初の妻は物静かないい女だった。でもこの女は、思うに、悪魔でもやり込めるだろうよ。こいつも最初の妻のように焼け死んでしまえばいいのにと望むよ。そうならないなら、俺は助けを求めて首吊り縄にまでひとつ走りだ。ああ、股袋よ、お前はお前の親方を破滅させた！ 暖かいベチコートにちょっかいだと、こうなるって訳だ。（一同退場）

第5場

（ロークライン、キャンバー、コリニュース、スラシメイカス、アサレイカス登場）

ロークライン 今や私は護られている、
無敵の勇猛果敢を持つ軍隊によって。

今や私は多数の兵士に取り巻かれており、
彼らは戦いの女神ベローナさえも退かせ、
その武力で女神をも震えさせるほどだ。
今や私は軍神マルスのように座っている。
ダイヤモンドの陣羽織を纏って
力強い牡牛に牽かれた戦車に乗り、
クサントスの流れでアルゴス軍を蹴散らした時の軍神のように。⁵
呪わしいハンバーよ、今や、お前の最期は近づいている、
お前の勝利の栄光は消え去るのだ。
そして全ての名声、また全てのお前の令名は
間もなくロークラインの剣に服するのだ。
お前の傲慢な軍旗は銀の流れに遮られ、
お前の天幕の装飾品は
この手によって没収され、
お前自身は、アルバナクトの墓に
捧げられるのだ、生前に
お前が彼に行った全ての悪行を償うために。
しかし教えてくれ、勇敢なるスラシメイカスよ、
ハンバーの陣営はどれほど我々から離れているか。

スラシメイカス 閣下、あの邪惡で呪われた森の中に、
我々の破滅を狙う森の中に、
ハンバーは忌々しい軍隊を隠しております。
進軍してください、閣下、私は見たく存じます、
卑怯なスキタイ人が自分の血の中でのたうつのを。
ロークライン 優しき運命よ、微笑みでロークラインに味方したまえ、

5 クサントスはトロイアにある川の名前。

私が優しき弟の死の仇が討てるように。
 壮麗なトロイノヴァントの町の真中に、
 お前の神々しさに捧げる、
 完全な大理石とサファイアの神殿を建立しよう、
 高いピラミッドを凌ぎ
 頂は天をも超えるような神殿を。

キャンバー 恐れられた騎士の屈強な子孫、
 怪力無双のヘラクレス、アルクメーナの強力な息子、
 三重の世界の怪物を退治し、
 抑圧された者を暴君の頸木から解放した彼であっても、
 これほどの勇猛さを戦いでは示したことはない、
 私がこれから、貴いアルバナクトの為に示すほどには。

コリネウス 優に八十年の歳月をコリネウスは生きてきた、
 ある時は戦いの中に、またある時は平安の中で。
 しかし今、私はかつて人生の盛りにいた時のように、
 肉体の頑健さを感じ、
 敵の脳漿^{あと}の痕が付いた
 この巨大な棍棒を揮うことが出来る。
 この棍棒で強き敵、ハンバーや
 彼の流浪の部隊を蹴散らしてやろう。
 さもなくば我が命を敵軍の中で散らし、
 人生の最後の日々において、名誉をもって死ぬまでだ。
 だが、私が死ぬ前に、彼らは分かるだろう、
 どれほどの力がこの頑健なコリネウスの手にあるかを。

スラシメイカス また、もしもスラシメイカスが、軟弱さあるいは臆病さ故に
 戦いから退くようなことがあれば、
 彼にはブルータスが伯父であり、

また勇猛なコリニーウスが父であると二度と豪語させるな。

ロークライン では諸君、まず初めにあなた方の安全のために、
次に平和のために、最後に勝利のために、勇気を出すのだ。

（一同退場、戦闘の合図）

（ハッバとセガールが一方の扉から、コリニーウスはもう一方の
扉から登場）

コリニーウス お前が、流浪者どもの王、ハンバーか？

卑怯なやり方で若きアルバナクトを殺したのはお前か？

ハッバ 私はハンバーの息子で、若きアルバナクトを殺した。

お前が用心をしなければ、傲慢なフリギア人よ、

お前の魂をステュクス⁶の湖へと送ってやる、⁶

そこでハンバーから不正を受けたと嘆くがよい。

コリニーウス お前は凱歌を上げているが、勝利はまだだ、
なぜならコリニーウスはそう簡単には殺されはしないからだ。
いやむしろ、呪われたスキタイ人よ、
お前たちがかつてアルバニアにやってきた日を悔やむことになる
だろう。

ブリテン人の富を羨んだ者は滅び、

限らない汚辱のうちに死ぬことになるのだ。

ブリテンの君主の破滅を求めた奴には

この棍棒で悲しみをたっぷり味わわせてやる。

（打ちかかり、棍棒で二人を打ち倒す。ハンバー登場）

ハンバー どこに私は荒涼たる荒地を見いだせるだろうか、

私が望む限りの呪いを吐き出せるような場所、

呪いの声で大地を怯えさせるような場所を？

6 ステュクスは黄泉の国を流れる川。

どこで、あらゆる木霊の反響が
 私が敗れたことを嘆くのを助けてくれるだろうか、
 そして私が悲しく嘆くのを援けてくれるだろうか？
 どこに私は空ろで粗末な岩を見つけられるだろうか？
 そこで私は、天、地獄、大地、空気そして火に悪態をつき、
 罵声を浴びせ、たっぷりと呪い、
 円い大空に向かって呪詛を浴びせ、
 大気の領域を汚す、その呪いを
 ブリテン人のロークラインの頭上に落としてやる。
 お前たち、コキュトスで嘆き、
 苦しい嘆きで歯ざしりしている醜い霊たちよ、
 黒いレテの川で吠え
 その大きく開いた口で亡霊を恐れさせている、お前たち、恐ろし
 げな犬たちよ、
 その犬たちから逃げ出して、汚いフレゲトンの川に
 身を投じる醜い亡霊よ、
 さあ、お前たち全員、金切り声を立てながら
 勝利したロークラインの軍勢に取りついてくれ。
 さあ、数多い蛇を生やして恐ろしい獰猛なエリーニスよ、
 さあ、蛇の鞭で覆われた醜い復讐の女神たちよ、
 お前たち、黒いタルタロスの三人の裁定者たちよ、
 地獄の悪魔の全軍を使って、
 新しく見出された責め苦で傲慢なロークラインの骨を砕いてく
 れ！
 ああ、神々よ、星々よ！ セティスの大海原で
 私を溺死させなかった神々と星々は呪われるがよい！
 凶暴な大波で、逆巻く大波で私の船を

高きケラニアの岩に打ち付けて破碎せず
私を深淵の中へと飲み込まなかった海は、呪われるがよい！
神に望む、我々は
ポリフェーマスやキュクロプスが住んでいる島か、
貪欲な顎でさ迷える人々を貪る
血に飢えたアントロファグスが住んでいる岸边に漂着した
方がよかったのだ！

（アルバナクトの亡霊登場）

だが何故、血に塗れたアルバナクトの亡霊が現れるのだ、
私の悲惨な状況をより悲惨にするためか？
恥辱に満ちた敗退に耐えるだけで十分ではないのか、
見るだに恐ろしい亡霊によって、
私は苦しめられなければならないのか？

亡霊 復讐だ！ 血を求めて復讐だ！

ハンバー では、ハンバーがお前をアルバニーで倒した故に、
その恐ろしい復讐、つまりハンバーの滅亡以外には
お前のさ迷える亡霊を満足させるものはないのだな。
さて我が魂にかけて誓う、
お前を殺さないぐらいなら、むしろ、
ハンバーはタンタルスの飢餓か、イクサイオンの車輪か、
またプロメテウスの禿鷹という墮地獄の罪に落ちるほうがましだ。
私が死ぬ時には、私はお前の呪われた霊を
汚いエレボスの全ての川に、
また煉獄の泉の燃える硫黄の中を引きずり回してやろう、
我が永遠の魂の中で荒れ狂う熱を放って
燃え盛る激情を鎮めるために。

亡霊 復讐だ、復讐だ。 （一同退場）

第 4 幕

第 1 場

（以前のようにアテイ登場。それから、リディアの王の娘オムパレーが手に棍棒を持って背中にライオンの毛皮を羽織って追いかけてながら登場。ヘラクレスが糸巻棒をもって追いかけてくる。それからオンファールは振り向き、靴を脱いでヘラクレスの頭を打つ。それから二人は退場。アテイは舞台に残り、次のように言う。）

アテイ アルゴスの王の厳しい命令も
 ユーノーも征服できなかった男に、愛が打ち勝った。⁷
 頑健なヘラクレス、世界の鑑、
 アルクメナと偉大はゼウスの息子は、
 野において多くの征服の後に、
 数多くの怪物を武力で鎮圧した後に、
 自分の勇ましい心をオムパレーに、
 男の力はないが恐ろしいその女性に差し出した。
 彼女はこん棒を握り、ライオンの毛皮を着た。
 彼は紡ぎ車を手にとり、女性のように糸を紡いだ。
 同じように武勇優れるロークラインは、勝利に有頂天となり、
 ハンバーの妾と恋に落ち、
 比類のないグウェンドリンを忘れた。
 彼の叔父コリニーウスはこれに激怒し、
 ロークラインに彼の許しを求めるように強いる。

7 quem non Argolici mandata severa Tyranni, / non potuit Juno vincere, vicit amor.
 この 2 行はエレゲイア韻律のラテン語。出典はオウィディウス、『名婦の書簡』第 9 歌「ディアニラからヘラクレスへ」25-26 行。ただし、25 行目を少し改変している。

ここにその結果を見よ、その後の経緯を。 (退場)

第 2 場

(ロークライン、キャンバー、コリニーウス、アサレイカス、スラシメイカス、
兵士たち登場)

ロークライン　かくしてベローナ女神の激情の猛威から

太鼓やラッパの調べと共に

ブリテンの王は凱旋する。

スキタイ人は大戦^{おおいくさ}で倒れ刺殺され、

草と同じだけの数になり、

そしてその血で流れる川の水を汚し、

その最も大切な自分の肉体と血を

アルバナクトの霊への捧げ物とした。

忌々しいハンバーよ、

お前の詐欺と巧緻な裏切りに対して、

また全てのお前の陰謀と唾棄すべき策略に対して、

命を失い、未来永劫続く恥辱で、今お前は負債を支払ったのだ。

輝く馬飾りで装飾されたお前の馬、

口の周りに泡を垂らして轡をはみ、足を踏み鳴らす駿馬はどこに
いるのか？

屈強で数えきれないほどのお前の兵士、

勇猛な隊長や気高い貴族たちはどこにいるのか？

丁度、田舎の百姓が鋭い大鎌をもって

大地から草を刈り取り枯らすように、

あるいは農夫が鋭い鋤の刃先で

豊穡な大地の内臓を引き裂くように、

剃刀のように鋭い刃で根っこを切り裂くように、

ロークラインは力強い剣で
お前たちフン族の頭を切り落とした。
そのようにロークラインの貴族はお前の貴族の心胆を寒からしめ、
お前の軍を混乱に落とし入れた、
それでお前はお前の罪を贖い、
勇敢なアルバナクトを殺した故に死ぬがよい。

コリニーウス いや本当に残りの連中もこのような扱いを与えてやる、
我々の意思に反してアルビオンに侵入しようとした者たちには。
もしも勇敢なトログロディテスの国民が、⁸
もしも炭のように黒いエチオピア人全員が、
もしもアマゾン族の軍隊全部が、
もしも野蛮の土地の軍勢全部が、
不敵にも、我々のこの小さな世界に入り込むなら、
彼らはすぐに大胆すぎる行いを悔やむだろう、
後に、我々の子孫は言うだろう、
我々の土地を篡奪しようとした獣同然の奴らがあそこに眠ってい
ると。

ロークライン ああ、我々の土地を篡奪しようとしたのは獣同然の奴らだ、
だから、野蛮な獣のように、奴らは扱われるべきなのだ。
というのも天の至高の王である全能のゼウスが
流れ星の道筋を導き、
また青い蒼穹の運行を支配するが、
常にブリテン人の安全のために戦ってくれるからだ。
しかし、待て！ 叫び声が聞こえるようだ、
我らの天幕に近づいてくる。

8 赤海の周辺にいた人たち。ヘロドトスやストラボンにも言及がある。

（兵士たち、エストリルドを連れて登場）

エストリルド　どのような王であれ、嘗て黄金の冠を被り、
手には王の笏杖を持って支配し、
どんなことがあろうとも、打ち倒されることはないと考え、
またこの地位こそが永遠の立場なのだと考えている者は、
その者には、今苦境にある悲惨なエストリルドを見せるがよい、
彼女こそは苦境にある人間の完全な典型例だ。
かつて私は軍神マルスの軍勢に取り巻かれ、
高貴な血の貴族たちに護られていた。
今、私は敵の手に落ち、
私の死で彼らの敵意を宥めねばならない。
ああ、命よ、災難の宿るところよ！
ああ、死よ、全ての災難の安息の地よ！
惨めなペルガモンの惨めな女王よ、⁹
私の哀しみをお前の苦しみに譬えることができよう。
ただ違うところは、お前は敵が
高いカペレウスの岬の岩の近くで倒れるのを見て、¹⁰
お前は彼らの死を見て、そこから去ったこと。
わたしは勝利者の傲慢さに耐えねばならない。
お前の引き続く哀しみを憐れんだ神々は
お前の肉体を、そして肉体と共に、お前の苦しみをも変貌させた。
哀れなエストリルドは、救出されないことに絶望しながら生きね
ばならない。

9　ペルガモンはトロイアのことであり、その女王とはヘカペーのこと。

10　ギリシアのエウボイアの南岸に位置する険しい岬。ウェルギリウスの『アエネーイス』第11巻260行など、古典作品の中でよく言及される。

というのも、困窮した時の友は、極めて少数で稀だから。
 なんと、私は少数と言ったか？ ああ、少数というより、まったく誰もいない、
 というのも、残酷な死が彼ら全員を破滅させたからだ、
 三倍も幸せな人たちだ、彼らに幸運が伴い、
 彼らの命を終えることができ、それと共に哀しみも終えることが
 できた者は！
 三倍も不幸な私、運命は私の行く手を阻み、
 残酷にも私を敵の手に委ねたのだ！
 ああ、兵士たちよ、運命の裏切りに匹敵するような
 このような不幸があるだろうか。

ロークライン キャンバーよ、まさしくこれはスキタイの女王に違いない。

キャンバー その嘆きの言葉から判断するに、そのようです。

ロークライン これほど美しい女性を、私の目は見たことはない、
 まったく哀しみの悲嘆に暮れてしまっているようだ。

キャンバー ああ、ロークラインよ、彼女には悲しむ原因があるのではないで
 しょうか？

ロークライン （舞台の一方の側で） もしも彼女が、ハンバーが死亡したとい
 う理由で泣き、

そして彼女の転落によって塩の涙を流すのならば、

ロークラインも彼自身の哀しみのために嘆こう。

ロークラインも彼自身の哀しみを嘆こう。

ハンバーは打ち負かされて、あっという間に死を迎えた、

それで嘆かわしい傷の痛みを長くは感じなかった。

私は征服者であり、永らえた人生を生き、

そして愛の神の突然の力強い一撃を感じている。

私は奴があっという間に死ぬようにしてやったが、

奴は私にあつという間に死にたいと望ませる。
ああ、自然の色合いで彩られた甘美なるあの顔、
雪のような白さと交ざりあった薔薇色のあの頬、
象牙を凌ぐ上品な首筋、
きつとヴィーナスさえも嫉妬させるような形よい胸、
それらは巧みな鳥猟師が仕掛けた罠に似ている、
そこで私の従順な心は捕らわれ囚人となっている。
彼女の美しい金髪は
太陽の光に輝くルビーのように輝いているが、
ロークラインの哀れな恋心を罠にしっかりかけたので、¹¹
どうやってもそこから心を取り戻す方法がない。
私が何回も聞いていたことは、なんと真実だったのか、
少しの喜びは多くの心痛を引き起こすのだ。

エストリルド 黄金の王冠から、悲惨の海へと投げ落とされた者の
転落はまことに耐えがたい。

ロークライン クビードの洪面により、限らない心痛の波に抱かれた者の
隷属状態はまことに耐えがたい。

エストリルド ああ、王国、それは全ての悲惨さに通じている。

ロークライン ああ、愛、それは全ての不幸の中の最たる物。

（彼は自分の玉座に座る）

第一の兵士 閣下、スキタイ人の天幕を搜索していました時に、
私がこの女性を見つけ、私が閣下に対して持っております
深甚な敬意を表するために、
ここに閣下の面前へとこの女性を連れてまいりました。

11 金髪の中に恋の罠がしかけられている、という発想は、ペトラルカの『カンツォニエーレ』（196 歌～198 歌）などによく見られる。

第二の兵士 閣下、こいつは嘘をついております。私が初めにこの女性を見つけ、

それでここに閣下の許へと彼女を連れてまいりました。

第一の兵士 無礼な悪党、お前は俺の褒美を横取りするのか？

第二の兵士 いや、お前こそ俺の権利を奪っているのだ。

第一の兵士 お前のその権利をおれに差し出せ、卑怯者、

さなければ、この俺の剣で臆病者のお前の腰を刺すぞ。

第二の兵士 威勢のいい言葉だな、お前、言葉だけでは十分ではないぞ。

吠える犬は滅多に人を噛まないものだからな。

ロークライン 無礼な悪党どもよ、お前たちは私の面前で争うのか？

収監吏よ、こいつらを監獄へ連れてゆけ。

そこにこいつらを留めておき、好きなだけ口論させよ。

だが、あなた、美しき女王よ、少しも嘆くことはありません、

むしろ、ロークラインがあなたに好意を寄せていることを喜びなさい。

エストリルド 私の配偶者を殺した男が、どうして私に好意を寄せることができましょう？

ロークライン 戦いの偶然が、愛する人よ、彼をあなたから奪ったのです。

エストリルド しかし、ロークラインがその死を引き起こしたのです。

ロークライン 彼はロークラインの国の敵であった、

それに私の愛しい弟アルバナクトを殺した。

エストリルド しかし、彼は結婚の絆で私と結ばれていました。

それなのにあなたは私に彼の殺害者を愛せと望むのですか？

ロークライン まったく生きないよりは生きる方がよいのです。

エストリルド 貞節という評判をもって死ぬ方がよいのです、

恥と終わることのない恥辱をもって生きるよりは。

もしも私が愛する人を忘れ、あなたに心を寄せたとしたら、

一体、下賤な者たちは私についてどう噂をするでしょう？

ロークライン 王は下賤なる者たちの意見など恐れる必要はないのです。

エストリルド しかし女は自分の貞節という評判を考えなければなりません。

ロークライン 結婚という絆の中で生きることは恥でしょうか？

エストリルド 王の妾という以外は、恥ではありません。

ロークライン あなたがこのロークラインの燃える愛情に屈するならば、
あなたを美しいアルバニアの女王にしてあげましょう。

エストリルド しかしグウェンドリンが私の地位を脅かすでしょう。

ロークライン 我が名誉にかけて誓おう、あなたにはどんな危害も及ばないと。

エストリルド では勇敢なロークライン、エストリルドはあなたに身を任せま
す。

あなたが祈願のために名前を呼ぶ神々にかけて、
またあなたの亡くなった父上の亡霊にかけて、
またあなたの右手と燃える愛にかけて、
哀れな奴隷であるエストリルドに哀れみをかけてください。

コリニーウス ロークラインは妻のグウェンドリンを忘れたのか、
このようにスキタイ人の情婦に愛の言葉を語るとは？
なんと、ブルータスの言葉はこんなに早く忘れ去られるのか？
私の功績はかくも早く忘れ去られるのか？
私は今は亡きお前の父に、忠実ではなかったか？
私はお前をハンバーの手から守らなかったか？
それなのにお前は忘恩で私に報いるのか？
これが私の苦痛に満ちた負傷に対する報酬なのか？
これが私の過去の尽力に対する栄誉なのか？
今、わが剣にかけてお前に誓おう、ロークラインよ、
このお前の侮辱に対しては代価を支払って貰うぞ。

ロークライン 叔父よ、まるで宮廷の我々が何者でもないかのように、

あなたは、あなたの王たる君主を愚弄するのか？
 あなたは、あなたの上げた功績で私を咎めるのか？
 そうするのは臣下たる者の義務だったのだ。
 あなたが私の亡き父のために行ったことは、
 分かっている、しかしみんな知っているように、もう褒美は受け
 とったはずだ。

コリニーウス 立ち去れ、傲慢な自惚れ屋よ。お前は私に手向かうつもりか？
 しかと知るがよい、たとえお前が皇帝であっても、
 お前をこれゆえに罰しないではおかぬぞ。

キャンバー 我が兄をお許してください、高貴なコリニーウスよ、
 お許してください、そうすればそれは正されるでしょう。

アサレイカス 従兄よ、ブルータスの今際の言葉を思い出して下さい。
 彼はいかに自分の言葉を尊重するように望んだことか。
 この間違いであなたの心を怒らせないでください、
 間違いはまだ全く矯正できなくはないのですから。

コリニーウス では、ロークライン、いいか、私は和解する用意がある。
 ただ、お前が自分の命を愛するように、妻を愛するのだ。
 しかし、お前がこの約束を破るならば、
 血生臭い復讐がお前の頭の上に降りかかるだろう。
 さあ、我々は壮麗な都トロイノヴァントに戻ろう、
 そこでこれらの問題を解決しよう。

ロークライン （自分自身に）何百万もの悪魔がお前の魂に取りつくがよい！
 悪霊の軍団がお前の不敬な霊を苦しめるがよい！
 数多くの苦しみがお前の骨を砕くがよい！
 呼吸という機能を備えたものはなんでも
 お前に死をもたらす道具となり実行者となるがよい！（一同退場）

第3場

（ハンバーが一人登場、髪は肩の上にたれており、両腕は血塗れで、片手に矢を持っている。）

ハンバー どのようなバジリスクがこの場所で孵化したのだろうか？

ここではあらゆるものが消滅し無に帰している。

なんと恐ろしい復讐の女神がこの呪われた森に取りついているのか？

ここでは根一つでさえハンバーが食するために残されてはいない。

邪悪なアレクトが、毒を含んだ息で

柔らかな草原に毒を撒いたのか？

三つの頭をもつケルベロスが、伝染力のある唾液を滴らせ、

草の間にトリカブトを撒いて萎びさせたのか？

恐ろしい飢餓がその魔法の杖で

実りも豊かな木々に不毛をもたらしめたのか？

この荒地には、根も、果物も、獣も、鳥もないのか、

ハンバーの飢えを満たすような？

エレボスの悪鬼よ、これ以上あなたは何を望むのか？

私のあらゆる臓器は、干からびて燃えるようだ、

内臓は叫んでいる、「ハンバー、俺たちに何か食べるものをくれ」と。

だが、惨めなハンバーはお前たちに何もやれない。

この邪悪で呪われた森には何も無いのだ。

この不毛の地は何も食べ物を生み出さず、

神々、冷酷な心の神々は、私に何も食べ物を与えない。

一体どうすればハンバーはお前たちに食べ物をやれるだろうか？

（ストランボー、フォークをもちスコッチ帽を被り以下のように話しながら登場¹²）

ストランボー お元気ですか、旦那方、お元気ですか？ どうやって、こんなにも長く絞首刑を逃れられたのですか？ いや本当に、私は今年は罰を受けることから何度も逃れました。でも有り難いことに、それらを全部、私は勇気をもって、勇気で乗り越えてきました。それで私の妻と私は、大変愛し合い、惚れ合っておりまして、私の体力も男らしさにも感謝ってわけです。というのも、お話ししますがね、旦那方、ある日ある夜に私が帰宅すると、本当のことを言いますと、ワインをたらふく飲んでですがね、部屋に駆け上がってゆきますと、素面の妻が小さな子供をあやしながら、ベッドに凭れて子守歌を歌いながら座っておりました。で、妻は私が鼻から真っ先に部屋に入ってくるのを見ると、私が酒に酔っていると思って、実はそうだったんですがね、小枝の箒を手にもって、まるで、食い付きそうな凄い顔をして、私の方に向かって来たんです。こんなことを言っていました、「この酔っ払い、こんな時間になるまで一体どこへ行ってたんだ？ もう一回やったら、二度と容赦しないよ。」とね。それで彼女が私をたたき始めたんです。私の顔を十本の指で引っかくんじゃないかと、震えていたけれど、私は妻に跳びかかって、腰を熱く抱きしめて、力任せにベッドへ運んで、ベッドの上に彼女を投げ出し、その彼女の上に私自身を投げ出したって訳です。そこで私は、楽しみで大いに喜ばせてやったのです。で、その後じゃ、私のことを愛しい旦那さんと呼んだりしてね。で、喧嘩は永遠に追放だ。それで、この女の善意を見てください！ 彼女は持参金で一区画の土地を買ったのです、

12 スコットランド人が被る厚地の毛織帽子。

それで私は今やこの教区で最も金持ちの一人になったってわけです。さて、旦那方、今は何時でしょう？ 今は朝飯時だな。ここで俺が朝食に何を食べるか、お見せしましょう。

（彼は座って食物を取り出す。）

ハンバー この土地ほど実りを生まない土地があっただろうか？

この森ほど恵みを与えない森があっただろうか？

この地面ほど不毛な地面があっただろうか？

いや無い。腹をすかせた飢餓が住むところでも

この呪われた土地とは比べものにならない。

無い、熱帯の気候でさえ

この呪われた森よりも実りを生む。

優しいケレースも、ウェヌスもここには来たことはない。¹³

農夫たちの神トリプトレモスも、

このようなおぞましい荒地には種を撒いたことはない。

アケロンの飢餓に苛まれた犬たちも

燃えながら九重に流れる地獄のフレゲトンの川から追われても、

この呪われた土地に足を踏み入れたことはない。

鉄の心を持ち蛇を身に纏った復讐の女神は、

巨大なヒュドラを平原に限なく散りばめたのだ。

それが草や植物や木々を痛めつけ、

水の湧き出る泉を飲み干したのだ。

（ストランボー、彼の声を聞いてびっくりし、食べ物ポケット
に入れ、隠れようとする）

星の輝く天の偉大なる支配者よ、

あなたはあらゆる死すべき人間の命を導くが、

13 ローマの古い豊穡の女神。

浮遊する雲のかたまりから、
何か食べ物を落として下さい、さもないければ私は気絶し死んでしま
います。

何か飲み物を注いで下さい、さもないければ私は気絶し死んでしま
います。

ああ、ゼウスよ、あなたはメリクリウスに
田舎者の姿をさせて、食べ物を下さるために遣わしたのですか？
食べ物だ、食べ物だ、食べ物だ！

ストランボー ああ、おや、旦那、あんたは間違っている。俺はメリクリウス
じゃない。俺はストランボーだ。

ハンバー 食べ物をくれ、悪党！ 食べ物をくれ、
くれないと、お前の呪わしい頭をこの岩に打ち付けてやるぞ、
そして、私の血まみれの手でお前の内臓を引き裂いてやる。
食べ物をくれ、悪党！ 食べ物をくれ！

ストランボー お前さん、俺の肉体の真実にかけていうが、お前さんからそん
な扱いを受けるくらいなら、お前さんに雄牛をまるまる一頭差し
上げたいくらいだ。俺の脳みそをかち割るって？ おお恐ろし
い！ ああ怖い！ 俺はポケットに沢山の石なら持っている。

（ストランボーは彼にいくらか手渡そうとする。そして彼が手を
差し出すと、アルバナクトの亡霊が登場し、彼の手を打つ。そ
れでストランボーは駆けだし、ハンバーは彼の後を追う。退
場）

亡霊 見よ、ここにある邪мана野心と、
王位の篡奪と裏切りの報いを！
見よ、彼らに降りかかる苦しみを。
他人の土地、彼らの支配地ではない土地に
侵入した彼らの苦しみを。 （退場）

第 4 場

（ロークライン登場）

ロークライン　ロークラインと美しきエストリルドの嘆きの種は、
年老いたコリニーウスがもう七年も生き永らえ、
さらにもう七年、生きることを望んでいることだ。
ああ、最高神ゼウスよ、その考えを断ち切ってくれ。
奴がこの空気の喜びを享受してもよいのだろうか。
奴が生之恩恵を享受してもよいのだろうか。
輝かしい太陽を目にしてもよいのだろうか。
それは私の人生を恐ろしい死と同等にするのだ。
ウェヌスよ、この怪物を大地から連れて行ってくれ、
あなたの神聖な命令にこのように逆らう怪物を。
クピードよ、この怪物を暗黒の地獄に連れて行ってくれ、
あなたの母の甘い法律を取り消そうとする怪物を。
軍神マルスよ、炎で飾られたあなたの盾と
人殺しの刃で奴の命を奪ってくれ。
奴はロークラインの最高に甘い喜びを邪魔している。
しかし、私は、奴の真面目な顔つきや
リンセウスのように鋭く、怒りに満ちた目をものともせず、
奴の狡賢さをしっかりと出し抜いてきた。
心地よいリー川のほとりの町デュロリトゥムの近くに、
塩を含んだターミス（テムズ）川が銀の流れで滑りこみ、
緑豊かな丘陵地帯に一筋の裂け目を作っている。
その地下にロークラインは作ったのだ、
高価な大理石でできた素晴らしいアーチを。
その壁は、ダイヤモンドと
オフィル、ルビー、輝くエメラルドで飾られ、

そして太陽のように輝くカーバンクルも散りばめられ、
 部屋を人工の光で照らしている。
 そして、リー川からは管が敷かれ、
 その建物には水が引かれている。
 そこに私は美しいエストリルドを秘密裏に住まわせているのだ。
 たびたびそこへ私は小姓を付き従え、
 この心が望むものを内密に
 最も卑しい目に疑われることもなく訪ねている。
 愛とは常にこういう工夫に富むものなのだ。
 ロークラインは常にそこに赴こう、
 アトロポスが叔父の命の糸を切るまでは。 (退場)

第5場

(ハンバーが一人登場し、次のように述べる。)

ハンバー ああ、惨めな者には長く、幸せな者には短い命よ！¹⁴
 ああ、空腹とは全ての悪の中でもっともひどいものだ。
 私はこの荒れ地の洞窟で長く生きてきた。
 サンザシの実を食べ、哀れな木の根をかじり
 木の葉や獣の糞を貪りながら。
 洞窟が私の寝床であり、石が私の枕であり、
 心配が私の眠りであり、恐怖が私の夢だった。
 というのも、突風が吹く度に私は思うからだ、
 それがロークラインで、ハンバーは死なねばならないと。
 それゆえに、怖れと空腹で、ハンバーの心は、

14 原文のラテン語は *O vita misero longa, foelici brevis*. ローマ共和政末期の作家プブリリウス・シュルス (Publilius Syrus) の言葉である。

決して安らぐことがなく、いつも震えている。
ああドナウ川が私の渇きを癒してくれるだろうか。
ユーフラテス川が、軽快なエウリプス海峡が、
この熱い怒りを抑えてくれるだろうか？
この怒りは内臓で暴れ、私を食い尽くす。
冥界を九重に取り巻くステュクス川の恐ろしい悪魔たちよ、
喜びのないアケローン川の呪われた亡霊たちよ、
悲しみに満ち、奈落に閉じ込められた魂よ
アベルヌス湖に棲む、石炭のように黒い悪魔よ、
肉をつかむ鉤を持ってやってきて、私の飢えた腕をもぎ取って
くれ、

主人の命を支えてきたこの腕を。
お前たちの剃刀を持ってきて、私の腸を引き裂いてくれ。
お前たち鋭い火の熊手で、私の飢えた骨を砕いてくれ。
好きなように扱ってくれ、このハンバーが死ぬために。
星々に満ちた天空を治める呪われた神々よ、
呪われた神々の王である呪われたゼウスよ、
あなたの稲妻を哀れなハンバーの頭に落としたまえ、
そうすればこの死のような生を去ることができる。
聞いていないのか？ ハンバーには死が許されないのか？
いや、全ての神々が拒否しても、死んでやる。
優しいアビー川よ、私の苦しんだ遺体を引き取ってくれ。
これを引き取り、死すべき人間全ての目から隠してくれ。
そうすれば、私が息を引き取った時に、誰も言えないだろう、
「川の流れもハンバーの死に反対した」と。

(川の中に飛び込む。)

(アルバナクトの亡霊登場)

亡霊

見よ、殺戮が殺戮に続く。殺戮の中に私は安らぐ。
 ハンバーは死んだ！ 天よ喜べ、大地よ跳ねよ、木々よ踊れ！
 さあ、タンタロスよ、お前はリンゴの実を手にし、
 飢えに舐まれた手足に滋養を与えるがよい。
 さあ、シジフォスよ、その転がる岩は放っておき、
 休息が与えられなかった体をその上で休めるがよい。
 残酷なラダマンズよ、イクシオンの縛りを解き、
 その車輪に、誇り高きハンバーを横たえるがよい。
 私はこれから地獄の入口タエナルス洞窟に急ぎ戻り、
 コキュトス川を通り、エリュシオンの野に向かい、
 この知らせを父ブルータスに伝えよう。 （退場）

第 5 幕

第 1 場

（アテイが以前のように登場。イアソンがクレオンの娘を連れてくる。その後を付いてくるメデアは手に花輪を持っている。メデアはそれをクレオンの娘の頭に置き、火を付け、イアソンとクレオンを殺して退場する。）

アテイ エトナ山も、シシリアの洞窟において、
 秘密の愛によって傷つけられた女性の心ほどには、激しく噴火することはないだろう。¹⁵
 メデアは、イアソンが彼女の愛から去り、
 テーバイの王の娘を選んだのを見て、
 悪魔の術を使って、復讐を働いた。
 地獄の悪魔の集団とともに

15 原文の 2 行は長短短調のラテン語。1595 年版が「シシリアの」を Tincris としているのは Trinacris の誤植であろう。

三つの首を持つヘカターを召喚し、
ヘカターの魔術を使って花輪を作り、
イアソンとクレオンの娘に悪事を働いたのだ。
同じように、グウェンドリンは自分が不当に扱われ、
ハンバーの妾に自分の地位が奪われたのを見て、
コーンウォールの公国に急いで向かった。
そしてコーンウォールの兵士を集め、軍を作り、
頑強な兄スラシメイカスと共に、
夫とその軍勢に戦いをしかけた、
メルキア地方の川のそばで。
この陰惨なる虐殺の成り行きが
これから間もなく展開する。

第 2 場

（ロークライン、キャンバー、アサレイカス、スラシメイカス登場）

アサレイカス　だが教えてくれ、私の兄はそんな風に死んだのか？
今や誰がこの力ないアルビオンに残されているのだろうか？
柱のように我々の国を支えてくれるような人間が？
大胆な敵に恐怖を打ち込んでくれるような人間が？
今や誰が不運なブリテンに残されているのだろうか？
ブリテンの破滅的な失墜を望み、
滅亡、衰亡をもたらそうとする敵の野蛮な手から
この国を守ってくれるような人間が？
キャンバー　叔父上、死は我々人間の共通の敵ですが、
死以外には誰も我々の比類なき力には勝てないのです。
アルビオニウスの巨人族の破滅を見てください、
ハンバーとフン族の破滅を見てください。

しかしこの悪しき死はコリニーウスをこの世から奪い、
彼の代わりに不安な世界を残して、
我々の悲しみを増したのです。

スラシメイカス 彼の血を引く私ほど、
悲しみに満ちたその棺を嘆く者はいない。
呪われたハンバーの喉に不幸が降りかかりますように。
かつてコリニーウスの致命傷を作ったハンバーに。

ロークライン 泣いても死者の中から彼を蘇らせることはできない。
私の妻、グウェンドリンはどこにいる？

スラシメイカス ロークライン、妹はコーンウォールで
父の葬儀の準備をしています。

ロークライン では彼女にはそこで喪服の準備をさせ、
寡婦になった状態を永遠に嘆かせておこう。
今後、彼女を宮廷の門の中に入ることを禁じる、
このロークラインの愛の邪魔をさせぬために。
おい、お前、リー川河口のデュロリトゥムに向かい、
美しいエストリルドが住むアーチを訪れ、
彼女とセイブレンを直ちに宮廷に連れて来い。
グウェンドリンの代わりに彼女を女王にしよう。
他の人間はコリニーウスの死を悼んでおけばよい。
私は、自分の心をそんな風に悲しませはしない、
心の欲するものから私を遠ざけてきた者に対して。

スラシメイカス ではロークラインはグウェンドリンを捨てたのか？
コリニーウスの死をこんなに早く忘れてしまうのか？
天に神々が存在するのなら、確かなことだが、
地獄に悪魔が存在するのなら、間違いのないことだが、
神々も悪魔も、このお前の明らかな悪行に復讐し、

お前の呪われた頭の上に災難を降り注ぐだろう。

ロックライン 田舎者め、そんなことを抜かすのか、お前の君主に対して？

気でも狂ったか？

この王者の眼差しを受けてもお前は震えないのか？

偉大なロックラインが眉を擡めてもお前は震えないのか？

髭も生えそろわん小僧め、もしロックラインが

心ない子供を気にすることをくだらないと思っていなければ、

この戦斧の鋭い刃で

お前の魂を地獄で燃えるフレグトン川に送ってやるところだ。

スラシメイカス 私は若く未熟ではあるが

ロックラインが挑むならそれを受けて立とう。

私の高貴な父は、剣を使って敵を征服し、

アキテーヌの王である二人の巨人を殺した。

スラシメイカスは、ウェヌスのしもべの眼差しや

嘲る言葉に恐れ震えるほど

堕ちてはいない。

ロックライン お前は、王者たる君主を脅すのか？

立場に合わず、無礼な口をきいて、

侮辱する裏切り者め、自分の王に

楯突く奴はまさに裏切り者だ。

その惨めな命を失いたくなければ、

侮辱の言葉と、虚勢を張ったその言葉を取り消せ。

スラシメイカス 酷い不名誉という醜いシミで

王が自分の輝く威厳を汚せば、

かつて得た評価を失い、

憎しみの地獄へと自らを投げ入れることになるぞ。

ロックライン お前は私の不興を気にしないかのように、

この温厚な忍耐力を試すのか？

高慢な小僧め、自分の王を怒らせたことを知るがよい、

そうだ、その思い上がった高慢さが王を大いに怒らせたのだ。

永久にこの宮廷からお前を追放する。

スラシメイカス ろくでなしのロークラインめ、気をつけるがよい、

スラシメイカスはこの侮辱に復讐してやる。 (退場)

ロークライン さらばだ、高慢な小僧、口のきき方を知らん奴め。

アサレイカス ああ、閣下、思い出されるべきでした。

ブルータスがあなたに伝えた最後の言葉を。

いかに彼があなたに望んだか、

子が父に抱くべき恭順の意で

グウェンドリンを愛し慈しむようにと。

考えてみてください、もしこの屈辱が

彼女の心を動揺させるなら、いやきっとそうなるでしょうが、

争いと不和がすぐに続くでしょう。

彼女の軍勢の数があなたの軍勢ほどでなかったとしてもです。

力強い象が、ちっぽけな鼠の一噛みで

死ぬのを見たことがあるでしょう。

戦いの運勢などそんな風に不確かなもののなのです。

ロークライン 叔父上、黙ってくれ。これについて話すのはやめてくれ。

あれやこれやと囁くことで、

最高の甘美さの中にいるロークラインを悩まそうとする者には

死を覚悟してもらうことになる。

(小姓が、エストリルドとセイブレンと共に登場)

エストリルド ああ、教えて、お小姓さん、王はどこにいるの？

なぜ王は私を宮廷に呼んだのかしら？

死ぬため？ 私の命を終わらせるため？

教えて、優しいお小姓さん。嘘は言わずに教えてちょうだい。
小姓 いいえ、信じてください、お嬢様、私に残っている誠実さを信じて下さるのなら。あなたが恐れるようなそんな危険はありません。
さあ心の準備はいいですか。あそこに王がいますよ。

エストリルド それならエストリルド、お前の当惑した心を元気づけ、
祝福された時を祝福しなくては。勇ましいロークラインが
初めてお前を愛した、あの日あの時を。
私が愛するブリテン王に平和を。
彼を愛する人々皆に平和を。

（ロークラインは彼女を立ち上がらせる）

ロークライン エストリルドは卑屈な態度で身をかがめるのか？
彼女のしもべたるアルビオン王の前で？
立ち上がるのだ、美しい人よ、暗い表情はやめて
ロークラインの心を活気づける眼差しを上に向けてくれ。
そうすれば、私はそのバラ色の顔を十分に見ることができる。
その顔は恋の病にかかった私の心を絡め取っているのだ。
さあ宮廷に向かい、そこで愛を語らい、
ウェヌスの愉しみの中で昼も夜も過ごすでしょう。
さあ皆の者、楽しむがよい、王と共に喜ぶのだ。 （一同退場）

第3場

（グウェンドリン、スラシメイカス、メイダン、兵士たち登場）

グウェンドリン 優しい風よ、温和な流れで
円い天空を通り抜け、
ゼウスの王座の雲に入り、
全てを聞く耳の元に、私の祈りを運んでおくれ。
ロークラインはグウェンドリンを捨ててしまい、

高慢なハンバーの妾を愛してしまったのです。
 窪んだ空で、心地よい喜びを感じながら
 極めて甘い愛を楽しむ幸せな妖精たちよ、
 私とともに涙を流して。あなたたちが恋人に初めて求愛して
 彼女を自分のものにした時に流した涙を。
 そういう涙が私の悲しい状況には合っている、
 ロークラインは私の魅力のない顔を避けるのだから。
 天よ、恥じなさい。太陽よ、恥じて、お前の輝く光を隠すのです。
 陰気な雲で輝かしいお前の髪に影を落とし、
 お前の楽しげな光を世界に与えないで。
 そこには不実と欺瞞のみが君臨しているのだから。
 今私は何と言ったのでしょうか？ 不実？ そう、あの汚らしい罪、
 ロークラインはグウェンドリンを捨ててしまったのです。
 見て、天はグウェンドリンのために泣いています。
 輝く太陽はグウェンドリンのために恥じています。
 湿った大気はグウェンドリンのために泣いています。
 大地もグウェンドリンのために呻いています。
 そう、これらはブリテンの王よりも優しいのです。
 彼は不運なグウェンドリンを拒絶したのだから。
 スラシメイカス 妹よ、このことでは不平を言っても詮ないことだ。
 この公然たる不正は公然たる災いをもたらし、
 災いは痛ましい戦いで支払われ、
 戦いはロークラインの死でもって終わらなければならない。
 彼の死は我々の不平をすぐに終わらせてしまうだろう。
 グウェンドリン ああ、やめて、彼の死は私の悲しみをより大きくしてしまう。
 彼は私の夫だった人なのです、勇敢なるスラシメイカス、
 私にとって自分の目よりも大切な人、

私は彼を傷つけたくはありません。

スラシメイカス もし自分自身が受けた不当な扱いも

私の追放もあなたを復讐へと突き動かさないなら、

我々の父コリニュースの言葉を思い出すのだ。

彼の言葉は常に我々にとって法律なのだ。

父の死をもたらしたロークラインは生きていてよいのか？

あなたを捨てたロークラインは生きていてよいのか？

天も、地も、大気も、火も異議を唱えている。

それなら我々も皆それを拒もうではないか。

グウェンドリン それなら今後は女々しい不平には別れを告げましょう。

子供っぽい憐憫にも今後は別れを告げましょう。

呪われたロークラインよ、覚悟なさい。

復讐の女神ネメシスが武装して

我々の恐ろしい剣全てに宿り、

私に生がある限り、彼の心に火を付けた呪われたエストリルドに

恥ずべき最後を遂げさせましょう。

メイダン お母さん、自然は私に

不幸なお父さんの邪悪な情欲を嘆かせようとしませんが、

お父さんがお母さんをこんな風に不当に扱う報いとして、

私も可能であれば彼に死をもたらしましょう。

スラシメイカス 見よ、見よ、復讐の欲求は

年端も行かぬ子供の中にもあるではないか。

進め、勇敢な兵士たちよ、メルキアへと。

そこで我々は臆病者と対峙しよう。 (一同退場)

第4場

(ロークライン、エストリルド、セイブレン、アサレイカス、兵士たち登場)

ロークライン 教えてくれ、アサレイカス、コーンウォールの田舎者たちは
 そんな大軍でメルキアにやって来て、
 我が宮廷の近くで、そのみすぼらしい軍勢に、
 陣を張らせているのか？

アサレイカス はい閣下。そして彼らはすぐにでも
 閣下に戦いを挑もうとしています。

ロークライン 笑わせられる、グウェンドリンが
 私に向かって武器を取る勇気があると考えただけで。

エストリルド ああ、閣下、馬は全力で走るものです、
 拍車の痛みが骨にまで届いた時には。
 ロークラインよ、嫉妬は痛烈な一刺しを持っているのです。

ロークライン お前もそう思うか、美の鑑、エストリルドよ、
 彼女の怒りがどれほどのものか試し、
 教えてやろう、ロークラインは脅しは許さないと。
 進め、アサレイカス、先導して、
 彼らの高慢な陣営へと連れて行ってくれ。

第 5 場

（雷と稲妻の中、コリニーウスの亡霊、登場）

亡霊 見よ、青く円い天空が
 悲しい鼓動と重々しい溜息を投げかけ、
 ロークラインの破滅を予告している。
 稲妻は鋭い炎の矢を投げかけ、
 ヨーロッパ、アジア、アフリカに跨る偉大な大地は
 巨大な音を出して震え戦慄き、
 血なまぐさい虐殺に近いことを予言している。
 雲の馬車に乗った、恐ろしい夜の女神は、

蔭多き大地の女神テルスの顔に露を投げかけ、
黒いマントで大地を覆っている。
闇の中をはためき彷徨う鳥たちは、
今や陽気なはずの昼間に飛び回り、
未曾有の苦難を予告している。
暗き冥界タルタロスの裁判官ラダマントスによって
アベルヌス湖から送られた犬たちはうなり吠え立て、
その歌であらゆる森を苦しめている。
それゆえ、水の妖精や軽やかな子鹿、
賑やかな森の妖精は、
皆震え上がり、蔭多き木立の中に隠れたり、
恐ろしい洞穴の中で身を守ったりしている。
荒々しい北風の神ボレアスは雷で復讐を表し、
ごつごつとした岩は「容赦のない復讐を」と叫び、
棘に溢れた茂みも恐ろしい復讐を宣言している。（戦いの合図の音）
さあコリニーウスはここに留まり、復讐を見届け、
ロークラインの破滅を見て魂を慰めよう。
見よ、彼らがやって来た。トランペットが呼び寄せたのだ。
響き渡る太鼓の音が兵士たちを呼んでいる。
見よ、この平原で彼らの武具が光る様を。
全能なるゼウスよ、お前の稲妻を落として、
呪われたロークラインの頭上に災難を注ぎ込んでくれ。
（一方の扉からロークライン、エストリルド、アサレイカス、セイブレン、兵士たちと共に登場。他方の扉からスラシメイカス、グウェンドリン、メイダンと従者たち登場。）
ロークライン 驚いた虎が洞穴から出てくるように、
グウェンドリンがコーンウォールから出てきたのか、

このようにロックラインに楯突くために？

かわいい小僧、寄せ集めのお友達に付き添われ、

鎧を身繕うことができたのか？

勇気に溢れ、

賞賛に値する企みだと認めてやろう。

グウェンドリン　そうです、ロックライン、裏切り者のロックライン、私たち
は来たのです、

あなたに破滅をもたらすために。

このように軽蔑するとは、私が何をしたというのでしょうか？

このように拒絶するとは、私が何を言ったというのでしょうか？

あなたの言うことに従わなかったことがあったでしょうか？

あなたの秘密を漏らしたことがあったでしょうか？

汚らしい罪や好色な欲望で、

婚姻のベッドを辱めたことがあったでしょうか？

いいえ、婚姻のベッドを辱めたのはあなたです。

あなたの汚らしい心が、汚らしい情欲に圧倒されて、

情念の汚らしい矢に屈服してしまったのです。

酷すぎます、最初の、最善の妻を不当に扱うとは。

酷すぎます、最上の、最愛の友を不当に扱うとは。

酷すぎます、賢明なブルータスの定めたことを軽んじるとは。

父も叔父も自分自身も裏切るとは。

エストリルド　ロックライン、その小娘はずる賢く、

ヴェスタの巫女になれるようにも見えるほどです。

立派に演説を考えたものだわ。

スラシメイカス　ロックライン、我々は言葉で戦うために来たのではない。

言葉では決して勝利を収めることはできないのだ。

あなたは我々を嘲って楽しんでいるようだが、

剣を抜き、力で勝敗を決めようではないか。

そうすればどちらが強いかわかるだろう。

ロークライン 挑発するのか、不遜なスラシメイカスよ。

嘲る空威張りで私が恐れると思っているのか？

私が弱すぎて受けて立てないとも思っているのか？

すぐに切れ味鋭い刃をお前に見せ、

死神の使者たるこの剣で、

不遜な企みの始末を付けさせてやろう。（一同退場、戦いの合図の音）

（ロークライン、アサレイカス、もう一人兵士、一方の扉から登場。グウェンドリン、スラシメイカスが他方の扉から登場。

ロークライン側は撃退される。それからロークラインとエストリルドがうろたえながら再登場。）

ロークライン ああ、美しいエストリルド、我々は戦いに負けてしまった。

スラシメイカスが勝利を手にし、

我々はお笑い種になるのを待つのみだ、

敵対する連中から嘲りを受けながら。

剣と盾で武装した一万の軍が、

十万の軍に勝ってしまったのだ。

スラシメイカスは怒りで湯気を立てて、

弱気の軍勢に向かって猛り狂った、

銀の流れシモイス川の土手近くの戦場で、

盾を使いながら、ダイオメデスと戦った

厳めしい軍神マルスのように。（戦いの合図の音）

ああ、愛しいエストリルドよ、追撃が始まっている。

我々はもはや、真珠で飾られた馬に乗って、

立派なトロイノヴァントを見ることはないだろう。

もはや美しいコンコルディアを見ることもないだろう、
 囚われの身で連れて行かれない限りは。
 ではロークラインは捕虜となってもいいのだろうか、
 スラシメイカスのような若造の？
 グウェンドリンが私の愛する人を捕えてもいいのだろうか？
 私の目にそのような暗き時を見させはしまい。
 私がそんな悲しい光景を見ることはない、
 なぜならこの剣で、この鋭い短剣で、
 自分の呪われた心臓を切り裂くからだ。
 しかし、ああ、冥界を九度廻るステュクス川の裁判官よ、
 底なしの冥界の穴で、
 絶え間ない苦痛で亡霊たちを苦しめる裁判官よ、
 覆すことのできない意図や法律を持ち、
 天空の指揮官である神々よ、
 許してくれ、許してくれ、この呪われた悪しき罪を。
 ああ、神々よ、忘れてくれ、この糾弾された悪しき過ちを。
 （剣にキスをする）さあ、我が剣よ、お前は数多くの戦いで
 ブルータスと息子たちの命を助けてきた。
 さあ終わらせてくれ、死を切望する私の命を。
 死を望む私に死をもたらしてくれ。
 命を憎む私に死をもたらしてくれ。
 さらに、美しいエストリルド、
 哀れで悲惨な状況に置かれた美の鑑よ、
 私の目は太陽のように輝くお前の目を二度と見ることはないだろ
 う、
 エリュシオンの野原で再会するまでは。
 そこに私は急ぎ足で向かうでしょう。

さらばだ、虚しい世界よ、そしてその魅惑的な罨よ。
さらばだ、悪しき罪よ、そしてその魅惑的な快樂よ。
人間の苦悩の終わりである死よ、お前をありがたく迎えよう。
ありがたく迎えよう、悩みに重く沈んだロークラインのこの心臓
に。

（剣で自害する）

エストリルド 心臓よ、泣き声と重い溜息で破れるがよい。
涙よ、水をたたえた目から流れ出るがよい。
勇ましいロークラインの死を嘆く手伝いをしておくれ。
涙を注げ、水をたたえる場所よ、
偉大なロークラインの命は奪われてしまった。
ああ、気まぐれな運命よ！ ああ、定まりなき世界よ！
不運が生み出す、混乱極める混沌の他に、
この地球には何があろうか！
そこでは、我々はまるで鏡を見るかのように、
人生が一つの悲劇にすぎないことが分かるのです。
偉大な王たちも不運には為す術がない。
そう、偉大な王たちも不運には為す術がないのです。
偉大なロークラインは命を奪われてしまった。
エストリルドはロークラインの死後も生きるのだろうか？
生への愛着が彼女を彼の剣から遠ざけるのだろうか？
いや、彼の命を奪った剣が
今、私からこの儚い魂を奪うのだ。
この両手に力を与えたまえ、偉大なるゼウスよ。
そして悲しみに満ちた惨めな人生を終わらせたまえ。
ロークライン、私も行く、ロークライン、あなたを追って。
（自害する）

（非常招集の音。セイブレン登場）

セイブレン これほど悲しみにみちた光景と痛ましい惨状を、
運命が私の不幸な心に差し出すとは。
この恐ろしい剣は父の命を奪い、
致命傷を与えて母も殺してしまった。
トラキアの犬でも野蛮なミュルミドンたちでも、
こんなに悲しい状況では情を見せずにはいられないだろう。
激しいアキレスでも、どんなに固い火打石でも
この嘆かわしい悲劇を憐れまざるをえないだろう。
ロークライン、寛大さの鑑であるあなたは、
この呪われた悪しき洞の中で虐殺され横たわっている。
エストリルド、あなたは誉れの完全な鑑、あるいは、
比類なき自然の驚異であった。そしてその美しい胸の中には、
天上の優雅と美德が祭られていた。
しかし二人ともこの洞の中で殺され死んでいる、
美しい知恵の神パラスと美しき恋人のように。
ここに一本の剣があり、セイブレンには心臓がある。
この祝福された剣は私の呪われた心臓を切り刻み、
私の魂を両親のもとへと連れていってくれるだろう。
そして、我々の悲劇を見ている人間も
悲しい拍手で我々の身の上を嘆くだろう。（自害を試みる）
ああ、この乙女の手はあまりにも弱く、
胸の堡壘を突き抜けることができない。
愛に溢れるリュートを奏でることに慣れたこの指は、
鋼の剣を振るう力を持ってはいない。
それゆえ私は一人残され両親の死を嘆くのだ、
自分に死をもたらすことができないばかりに。

ああ、高貴さゆえに称えられたロークライン、
ああ、貞節さゆえに名高かったエストリルド、
あなたたちの最期をもたらした人々に禍いあれ！

（グウェンドリン、スラシメイカス、メイデン、兵士たち登場）

グウェンドリン 探しなさい、兵士たち。ロークラインとその愛人を見つける
のです。

あの傲慢な売春婦、ハンバーの妾を見つけなさい。

そうすれば彼女の綺麗な顔を

青白く恥にまみれた顔つきに変えてやろう。

二人の呪われた愛から生まれた子供も見つけなさい。

ロークラインの無二の喜び、若きセイブレンを見つけなさい。

そうすれば、あの私生児の胸の

生温かい血をすぐにしたたらせ、この心を満足させよう。

父の亡霊が復讐ゆえに常に私にとりつき、

「早められた死に復讐せよ」と叫んでいる。

兄の追放と自分の離婚が、

真鍮のように固くなった私の心から憐れみを、

ダイヤモンドのように固い胸から慈悲を、完全に追いやった。

スラシメイカス 美しいグウェンドリン、かつてお前の夫は

我々の絶え間のない歩みを導いてきた。

しかしもはやこの地上の光を楽しむことはない。あれを見よ、
顔をしかめたひねくれ者の運命によって殺され、倒れている。

そして彼の傍には、美しい愛人、

美しいエストリルドが陰気な剣で血塗られて倒れている。

二人とも自ら命を絶ったようだ。強い情熱で愛し合いながら、
力を失った両腕で抱きしめ合っている、

ずっと一緒にいるかのように。

二人の死体は悲しみに満ちてはいるものの、満足して
カロンの渡し船で汚れたステュクス川を渡ったのだ。

グウェンドリン では高慢なエストリルドは私の計画を邪魔したのか？

自分の命を乱暴に切り取り、
グウェンドリンの怒りから逃れたのか？
神よ、彼女が恐ろしいヒドラの命を得て、
イクシオンの車輪に潰されるよりも
酷い死を毎時間味わい、
毎時間死ぬために息を吹き返すがよい。
ティテュオスが、隠れるところのないコーカサスに留められ、
自分の不幸の原因を味わい、
毎昼、食べ物がなくて餓死し、
毎晩、死ぬために生き返るように。
待って、かすかな声が聞こえてくる、
不運な二人の死を嘆き悲しむ声が。

セイブレン この見捨てられた土地を治める山の精霊よ、

野蛮な獣を急ぎ追いかけるのは止めて、
悩みで押さえつけられた心を見るがよい。
嘆きの言葉に耳を澄ませ。
いかなる人間の力も業も私の幸福を生み出せはしない。
心の苦しみが暴君のように振る舞っているのだから。
木の精霊ドリュアスたちよ、軽やかな足取りのサテュロスたちよ、
夜に潮が満ちる時に、黄金の髪を肩に降ろして、
天上の美を集めた住処から出てくる優美な精霊たちよ、
洞穴や暗い住処の中の野蛮な熊たちよ、
ここに来て私と共に勇ましいロークラインの死を嘆いておくれ。
ここに来て私と共に美しいエストリルドの死を嘆いておくれ。

ああ、愛しき両親よ、あなたたちには分からないだろう、
あなたたちの悲惨さを想うあまりセイブレンがいかに悲しみで苦しんでいるかを。

グウェンドリン　こんなことがあってよいのか、あり得るのか？

私の怒りを鎮めるために、セイブレンが生きているとは。

運命の女神よ、この恵みに感謝します。

もしセイブレンが恥にまみれた死を迎えないのなら、

二度と私に幸せな時を過ごさせないでいい。

セイブレン　冷たい死神よ、惨めな人間が呼んだ時には

遠くにいて、めったに聞いていないのに、

幸せの絶頂にいる時には、

呼ばれないのにやって来て、命を二つに裂いてしまう。

その時は、その祝福されたその時は、いつ来るのだろうか、

哀れで、うちひしがれたセイブレンが逝く時は？

優しきアトロposよ、私の運命の糸を切ってちょうだい！

死神よ、どういうつもり？　哀れなセイブレンは死なないの？

（グウェンドリンはセイブレンの頸をつかみ、次のように言う。）

グウェンドリン　いや、セイブレンはたしかに死ぬ、

たとえ、全世界がその命を救おうとしても。

しかし普通の死を迎えることはないのだ、

この私生児の頭に今すぐに与えられる

特別な重い罰則を受けるまでは。

呪われた川の中にお前を投げ込み、

柔らかな肉を魚に食べさせてやる。

セイブレン　残酷な人殺しよ、

このお前の行いが罰せられないとでも思っているのか？

いや、裏切者め、神々がこの悪行に復讐し、

地獄の悪魔たちがこの屈辱を覚えてくれるだろう。
 血を吸う巨大な野良犬のお前たちには
 哀れなセイブレンを最後の住処へと連れて行かせはしない。
 なぜなら、お前やその一味への憎しみから、
 私は自分の運命を締め、
 ロックラインの剣ができなかったことを
 この心地よい小川にすぐに実現させよう。

（川に飛び込む）

グウェンドリン 一つの不幸が次の不幸へと続いていく。

彼女のように若い娘が、こんな勇気をもって、
 死に向かうなどと誰に予想できただろうか。
 まさにこの川において、
 幼いセイブレンが決然と自害を遂げたので、
 この川を永久にセイブレンと呼ぶことにしよう。
 他界した夫ロックラインは
 偉大なるブルータスの息子であり、
 我々はブルータスに国、生命、財産を負っているのだから、
 年老いて亡くなった父ブルータスの亡骸の傍の
 立派な墓にロックラインを埋葬し、
 立派な王であった彼に相応しい
 厳かで盛大な儀式を行おう。
 エストリルドには死者に相応しい敬意は示さずに、
 墓の外に置いておこう。
 彼女はこの争いの張本人だったのだ。
 勇敢なる皆の者よ、トロイノヴァントへと戻ろう。
 そしてそこで葬儀を執り行い、
 若きロックラインを彼の父親の墓に葬ろう。 （一同退場）

エピローグ

(アテイ登場)

アテイ 見よ、王位篡奪と傲慢さから生まれた
混沌たる悪事がこうして終わった。
自分の愛欲のために
国土に騒動をもたらし、争いを始めようとする人々は、
この前例を見て戒めとするがよい。
ここでは一人の女性が原因で
内乱が起こった。
だから我々は誉れ高きあの女性のために祈ろう。
三十八年の間、静かな平安と優しい至福の中で、
この国を統べてきたあの方に。
そして陛下に害をなそうとする人間には皆、
この剣がその心臓を貫くであろう。 (退場)

終